

冬季のオープンスペースの 利活用における課題

(研究期間：平成 28 年度～平成 29 年度)



都市研究部 都市防災研究室 主任研究官 影本 信明 (室長 (博士(工学))) 竹谷 修一

(キーワード) 降雪、オープンスペース、観光、防災

1. はじめに

豪雪地帯への外国人観光客等の積極誘致が求められる中、公園に代表されるオープンスペースは、憩いの場、あるいは観光資源等の様々な役割を担っている。一方、災害時においては避難場所や災害対応活動の拠点等の役割も果たしている。しかしながら、冬季の雪国においては積雪等により利用制約を受けることを考慮した、防災面での活用については十分な検討が出来ていない。平常にオープンスペースを積極的に活用しつつ、災害発生時にはスムーズに防災機能を発揮出来るよう準備する必要がある。

この状況を踏まえ、国総研では、平常の利用を考慮しつつ、冬季におけるオープンスペースの防災機能の確保において、どのような課題があるのかについて検討を行っている。

2. 冬季のオープンスペースの活用状況

積雪がある地域のオープンスペースを対象に、活用状況の実態を整理した。その結果、下記のような活用が行われていることが明らかになった。

- ・雪捨て場として活用することにより、除雪作業の効率化、地域の安全確保に寄与
- ・雪や寒さを地域資源と考え、雪まつり等の冬をイメージしたイベントの開催 (写真 1)
- ・クロスカントリーなどの冬のスポーツ、ハクチョ

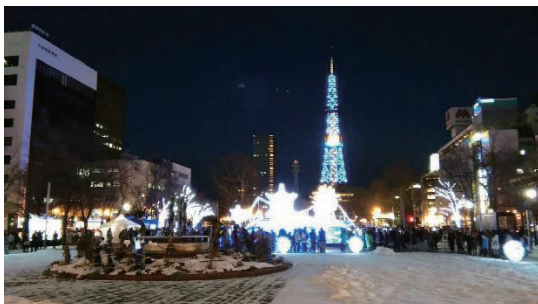


写真 1 冬季のオープンスペース活用例

ウ等が見られる場所という立地条件の活用

- ・地域住民の活動の一環として除雪を行い、地域の人の“顔が見える関係づくりの場”としての活用
- ・映画のロケ地として利用し、冬季の利用を促進

3. 冬季に災害が発生した場合の課題

冬季に災害が発生した際には、オープンスペースの利用においていくつかの課題も見受けられた。

- ・予算・マンパワーの不足：大雪に見舞われる年のために、オープンスペースの多機能化を図ることについては財政担当部局の理解が得づらい。
- ・積雪期のオープンスペースの利用制限：災害時用のマンホールトイレは積雪期に使えない、屋外を避難場所とすることが困難 (写真 2)、除雪状況によっては到達することが出来ない。
- ・イベント会場としての場所の制約：イベントが開催されている場合、災害時に急遽、避難場所等としてスペースを確保することが困難である。

4. 成果の活用予定

冬季のオープンスペースを平常時及び災害時にも活用出来るよう、今後、防災面での課題や対策についてさらに検討を行った上で、オープンスペース管理者や防災対策を行う機関に対して、国総研ホームページ等を通じて情報提供を行っていく予定である。



写真 2 積雪により活用が難しい例